



毎日の適切な薬と運動が  
進行を遅らせます

## パーキンソン病



じつとしているときに手足が震える、体の動きがぎこちなく思うように動かないといった症状が出て、病院でパーキンソン病と診断された場合、すぐに車いすや寝たきりになってしまうと心配されるかもしれません。

確かに現在、この病気を根本的に治す方法はありません。しかし、治療法は著しく進歩し、適切な薬やリハビリにより自立した生活を長く維持できることが多くなっています。

パーキンソン病は薬とリハビリによって症状を管理しつつ長くつきあっていく病気です。本人が正しい知識をもち積極的に治療に取り組む姿勢が大切です。薬の種類が多く効き方もいろいろなので、まずは服用している薬の内容を把握しておきましょう。自己判断で勝手に服用をやめると症状が悪化することがあるので注意してください。また、体が動かしにくい

からと、じつとしていては筋肉の衰えも加わり、もっと動かしにくくなってしまつので、散歩や体操を毎日行いましょう。

この病気は患者さんの会（全国パーキンソン病友の会）があり、インターネットや会報（大阪支部は「きずな」）で多くの情報が発信されています。また、日常生活での介助が必要な場合は特定医療費（指定難病）の申請ができますので、保健所に問い合わせてください。

現時点でも新しい治療法の開発が進められており、さらに画期的な治療が登場するかもしれません。希望をもって日々の治療に取り組みましょう。

吹田市医師会

宮下

光太郎